

自然と、あなたと、ともに未来へ。



2026年3月31日

株式会社レノバ

【国内最大級】レノバ、静岡県菊川市で90MW/270MWhの「市場販売型」蓄電所を開発 ～約60億円のプロジェクトファイナンス融資契約を締結～

株式会社レノバ（東京都中央区、代表取締役社長 CEO 木南陽介、以下「当社」）は、関連会社であるアールワン蓄電所合同会社を通じ、静岡県菊川市で開発を進める「菊川西村蓄電所（想定出力90MW、想定容量270MWh）」の事業資金として、約60億円のプロジェクトファイナンスに係る融資契約を本日締結いたしました。

昨今のAI普及に伴うデータセンターなどの新增設を背景に、将来的な電力需要の増大が見込まれる中、CO2を排出しない安定電源の確保は喫緊の課題となっています。本事業は、補助金や固定価格買取制度（FIT）に頼らず、需給調整市場等への参加を通じて電力システムの安定化に寄与する「市場販売型」*1の蓄電事業として、大規模なプロジェクトファイナンスの組成を実現した先進的な事例となります。当社は2023年、姫路蓄電所（想定出力15MW、想定容量48MWh）において、市場販売型蓄電事業では国内初となるプロジェクトファイナンスを実現しました。この時培ったファイナンス組成力を活かし、この度、国内最大規模となる本事業においてもファイナンス組成に至りました。

*1 市場販売型：国による価格保証（FIT制度等）や特定の相手との長期固定価格契約に頼らず、「需給調整市場」や「容量市場」などの市場で「調整力」や「供給力」を提供することで収益を確保する事業形態のことです。

■ 本事業の4つの特長

1. 市場販売型として国内最大規模（90MW/270MWh）のインフラ構築

本事業は、特定の契約に縛られず、需給調整市場や容量市場などの複数の市場へ柔軟にアクセスする「市場販売型」の蓄電所として、国内最大規模の90MW/270MWhを誇ります。大規模な調整力を提供することで、次世代の電力システムを支える中核的な「エネルギーインフラ」としての役割を担います。

2. 大規模化と内製化による高い「コスト競争力」の実現

本事業は国内最大規模のスケールメリットを活かし、MW当たりの事業費低減を実現しています。また、蓄電所の運用業務を内製化し、自社で培った最適運用の知見を活用することで、運用コストの抑制のみならず、市場環境に応じた機動的な運用による収益の最大化を追求します。将来的な蓄電所間の競争激化を見据え、持続的な収益確保と優位性を併せ持つ強固な事業基盤を構築しています。

3. 蓄電所プロジェクトファイナンス実績に基づく高い信頼性

本事業は、国内の大規模蓄電所案件として先進的な融資スキームを構築しています。市場連動型の高度な運用モデルに対し、株式会社 SBI 新生銀行から事業の安定性と将来性について高い評価をいただいた証であり、当社の強固な資金調達力を示します。

4. 再生可能エネルギーの有効活用と電力供給の安定化への貢献

再生可能エネルギーの出力制御を抑制し、電力を無駄なく活用する「調整力」を提供することで、電力需給の逼迫解消に寄与します。また、電力の品質を一定に保つ「需給調整市場」や、将来の供給力を確保する「容量市場」への積極的な参加を通じ、社会全体における電力コストの低減と安定供給というインフラ事業者としての責務を果たします。

今回の投資決定により、当社の蓄電事業（運転中・建設着手含む）は 352MW に達しました。これは、中期経営計画で掲げる「2030 年までに累計 900MW」という目標の約 4 割に相当する大きな一歩となります。レノバは、「グリーンかつ自立可能なエネルギー・システムの構築」というミッションのもと、今後も投資を一段と加速させ、次世代エネルギーインフラの基盤づくりを通じて、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。



【菊川西村蓄電所・建設予定地】

【補足】本件に関する詳細（財務への影響や契約の細目）については、本日（3月31日）付け適時開示にて「当社の蓄電事業に関する融資関連契約の締結のお知らせ」を公表しておりますので併せてご確認ください。

■ 菊川西村蓄電所の概要

事業主体	アールワン蓄電所合同会社
建設予定地	静岡県菊川市河東
想定出力/想定容量	90MW/270MWh
着工予定	2025 年度
運転開始予定	2028 年度（予定）
出資会社	株式会社レノバ NCS アールイーキャピタル株式会社 SMFL みらいパートナーズ株式会社

【リリースに関するお問い合わせ先】

株式会社レノバ 広報室

Email : press@renovainc.com